実践のまとめ（第６学年　道徳科）

授業日　令和４年11月14日第５校時
上越市立清里小学校　教諭　太田　渉

１　研究テーマ

対話を通して考えを深めることで、自他のよさを認め、高め合う子を育成する

２　研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

学習指導要領解説 特別の教科 道徳編では、道徳科の目標とする教育活動とは「自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」とある。また、「社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもつ」ともある。

他者と共によりよく生きるためには、何が大切かを状況に応じて考え、判断し行動する力が求められる。その為に、自他のよさを認め合って、意見を交わし望ましい答えを導くために探求する力を身につけることが必要不可欠と考える。自己のよさを認めることで、自己肯定感や向上心が生まれよりよい自分へのあこがれとモチベーションとなる。他者のよさを認めることで、信頼関係を結んだり、感謝の気持ちをもったりすることができる。その上で、答えに向かって「対話」を通し、探求していくことが道徳において重要だと考える。

社会の変化に対応しつつその形成者となるためには、対話(コミュニケーション)を通して考えを深めることが必要である。最も身近な社会である周囲の仲間たちと対話することで様々な考え方に触れ、自分の考えを深めることで道徳性を養い、社会の変化に対応するための道徳的実践意欲が育まれていくと考える。

以上の2点から本研究テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

①　教材と提示方法の工夫

育成講座1日目の講義で、教材によって児童の発言しようという意欲が大きく変わるということを改めて感じた。より活発な対話のために、教材と提示の方法を工夫し発言したくなる活動環境を作る。

②　自己の活動前後の考えの変容を記録

対話の前、初読の段階での自分の考えを記述しておく。対話後の自分の考えも記述し、違いを比べることで自分の考えがどのように変わったかを見取れるようにする。

③　他者の発言・考えの記録

他者の発言で納得できたこと、なるほどと思ったことなどを記述するようにし、他者の発言のよさ、何が自分に影響を与えたのかを振り返れるようにしておく。対話の流れの中でなく振り返ることによってより他者のよさをきちんと見取ることができる。

(3) 研究テーマにかかわる評価

①　通常の道徳授業と比較して、発言の回数や内容に変化はあったか。(発言)

② 対話の事前、事後での考えの変化に児童が自ら気付くことができているか。(ワークシート)

③ 他者の発言をどの程度記述できているか。また、どのような点が良かったと見取れているか。(ワークシート)

3 指導計画

(1) 主題名

誠実に生きる (内容項目A 正直、誠実)

(2) 教材名

「手品師」(小学道徳６ はばたこう明日へ 教育出版)

(3) 主題設定の理由

① ねらいとする道徳的価値

「誠実に、明るい心で生活すること。」に関わる主題を設定した。「誠実」とは、私利私欲をまじえず、自分の気持ちに偽りなく真心をもって人や物事に対することである。しかし、学習指導要領解説 道徳編ではこの教材は「A 主として自分自身に関すること」と位置付けられている。他者からどう見られるか、思いやりの気持ちをもつといった人との関わりの中だけでの誠実さではなく、あくまで自分の心と向き合い、良心や自分の判断に従って行動できるかということが重要だと考える。本校の6年生にとり、約束を守るや人のために行動するという価値ではなく、自分の本心に対して誠実であるかという問いかけは初めてのものであるかもしれない。日常の人間関係において自分が不利益を被らないために正直でいられないことがあると想定される。例えば、宿題を忘れてしまったときや、すでに遊びの約束をしているのにもっと楽しそうな誘いが後から来た場合などが考えられる。そのようなときに嘘をついたりごまかしたりしてしまうことがあると考えられる。

主題名「誠実に生きる」とは葛藤をせず常に正しさを体現するということでなく、葛藤する場面において、損得や他者からの評価に関係なく、 自分の良心に偽らずに向き合い自己決定することであると考える。その葛藤を経て誠実に行動できるということが、自分自身を価値付け、後悔しない誇りある生き方につながる。児童がよりよく生きるため、誠実さについて考えるきっかけとなることを願い、本主題を設定した。

② 教材と児童

明るく素直な児童が多いクラスである。トラブルが起こって事情を聴かれた際などにも、嘘をつくことはない。一方で、自分のしたことをなるべく過少に言ったり、悪気がなかったことを強調したりとなるべく責任を回避しようとする姿が見られることもある。また、最高学年として、より良い手本となろうとする意欲が見られることがあるが、委員会などの役割より、休み時間の自分の楽しみを優先してしまうこともある。

本授業を通して、自分のよりよい行動をしたいという良心に従って誠実に行動することの大切さを深く考えさせたい。

(4) 他の教科、領域との関連について

	教科・領域	道徳科	教育活動
1学期	総合的な学習の時間 「清里の今と未来」		修学旅行(6月)
2学期		手品師 (A 正直、誠実)	学習発表会(10月)
3学期	総合的な学習の時間 「自分の未来・清里の未来を考えよう」		卒業式(3月)

(5) 本時のねらい

手品師が男の子との約束と、夢を叶えたいという思いについて話し合い、自分の良心に従って生きることの大切さに気付き、誠実に明るい心で生きようとする心情を育てる。

(6) 本時の展開　（令和４年11月14日実施）

	□学習活動	○主な発問 ・予想される児童（生徒）の反応	◇留意点
導入 10分	□教材文を読み問いの答えと感想を書く。 □教材をもとに意見を話す。	誠実な手品師のお話です。誠実とはどういうことですか ・約束を守ること。 ・男の子を喜ばせること。 ・約束を守りながら、劇場に出演する方法はないか？ ○ステージ出演の依頼を受けた時、手品師はどんな気持ちだったでしょう。 ・こんなチャンスは二度とないかもしれない。 ・劇場でうまくやれれば夢がかなう。 ・約束を破ったら男の子は悲しむだろうか。 ・約束を破って大劇場へ行っても悔いが残る。 ○これまで葛藤をしたことはありますか ・宿題をするかゲームをするか。 ・叱られたとき正直に言うかごまかすか。	◇「誠実」とはどういうことか児童の理解を確認する。 ◇ステージに出る/男の子に会いに行く選択を黒板で整理する。 ◇葛藤という言葉を伝え誰しもが思い悩むことがあることを伝える。
展開 25分	□学級全体で話し合いをする。	○手品師の誠実さはどこにあるでしょう。 ・自分の成功より、約束を守る方を選んだこと。 →夢をかなえるためにチャンスをつかんではいけないのか。 ・ステージに出演すると決めたこと →男の子との約束を守れず後悔はしなかったのか。 ・自分で行動を決めたところ。 →ステージに出た方が得か、約束を守る方が得か。 ・自分のことは後回しにして行動できたから。 →自分の幸せと男の子の幸せどっちが大切なのか。 誠実な手品師のお話です。誠実とはどういうことですか	◇友達の発言で心に響いたものは書き留めるように伝える。 ◇約束を破らずにステージに出られる解決策の検討や、定型的な価値判断にならないよう適宜問い返し(→)をする。 ◇他者へのかかわりの中でのよさと手品師自身のよさを分類する。
終末 10分	□学習を振り返り再度問いについて考える	・自分の心に嘘をつかずに、その通りに行動すること ・損得や人の目に流されずに生きること。	◇話合いの前と今の意見の違いを比べる。

(7) 本時の評価

① 評価の視点

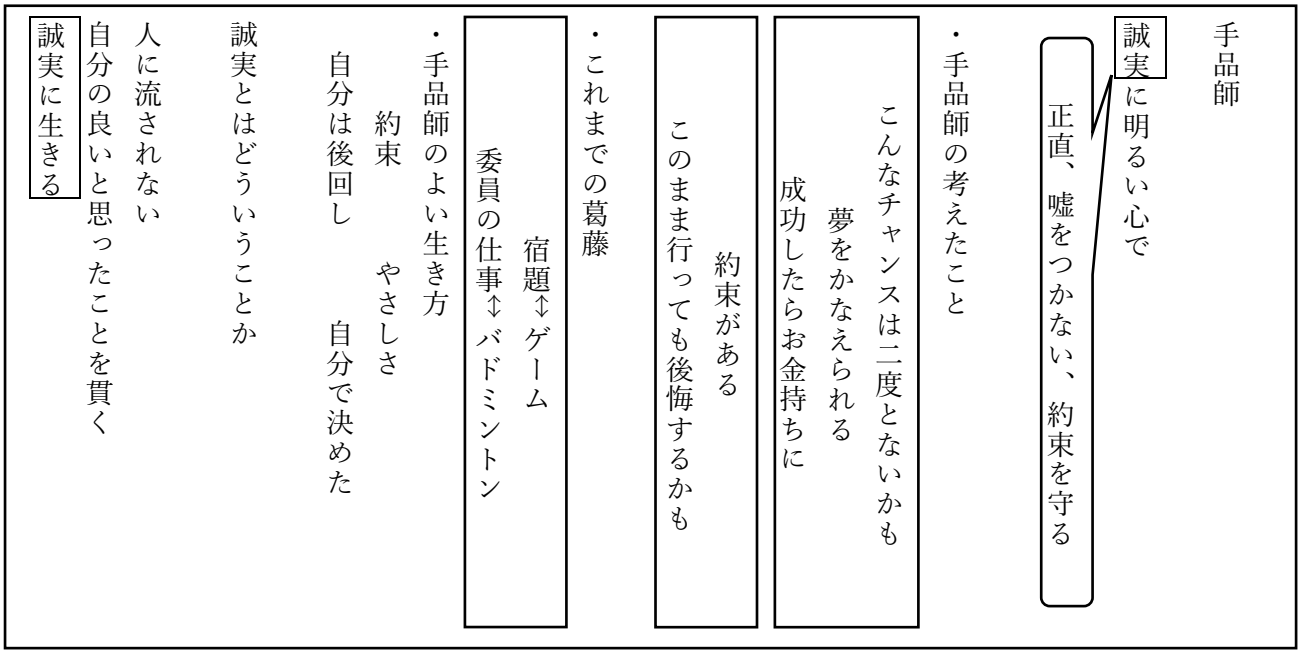
・他者の考えにふれ、誠実に生きることについて自らの考えが深まったり、変容したりしているか。（発言・記述）

・誠実に生きるためにはどんなことを心掛ければよいか考えることができているか。（記述）

② 評価の方法

・児童の発言、学習活動の観察、ノートへの記述

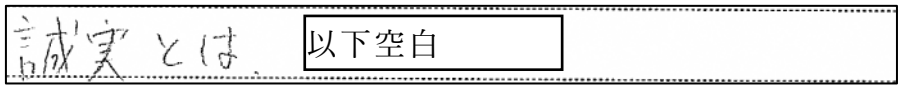
(8) 板書計画



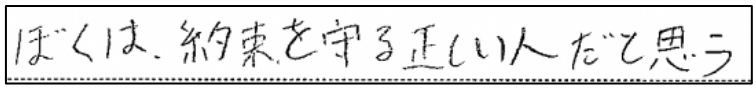
4 実践を振り返って

(1) 授業の実際（指導の実際）

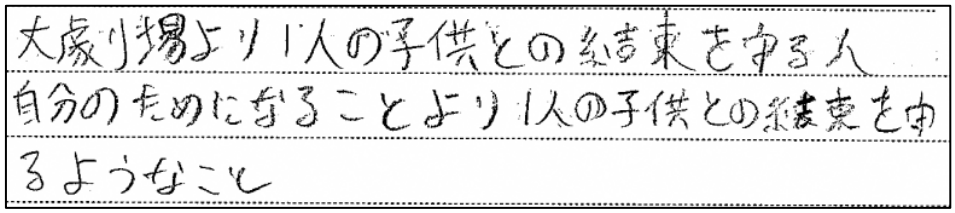
本時の導入は児童の対話を経ての変容を確認するため、誠実という言葉へのイメージや理解を確認した。教材文を読み、１度目の主発問をした結果子どもたちは以下のように考えた。



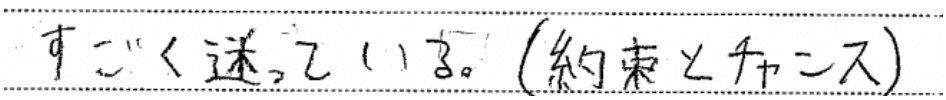
［児童Ａの記述］



［児童Ｂの記述］



［児童Ｃの記述］



［児童Ｄの記述］

うまく言葉でまとめられない子、約束を守ることが誠実だと考える子、自分のためよりほかの何かを優先できること、迷うことが誠実だと考える子など事前の想定よりさらに多様な考えがあった。

対話を通してそれぞれの考えを共有すると、約束を守るのが誠実だという意見に対して、自分の夢を叶えるために約束を守らず劇場に行くのはいけないことかという意見が出た。そこから自分だったらどうするかに話が及び、大半の子が約束を優先するという中、一人だけ僕はチャンスを優先すると表明する子が出た。共有をきっかけに、話合いをより深めていくことができた。

対話の後、改めて二度目の主発問を行い、同じ発問に対して色々な考えが見られた。

私はみんなの話を聞いて、人それぞれの誠実があるんだなーと思いました。その中で私は特に自分の意で誠実を決めるのかなと思いました。私だったら、チャンスの方に行って早くパン買うのもギリギリの生活からぬけたいです。でももし、男の子の方に行くんなら、自分はかわいそう、約束を守れなかったという後ろめたい気持ちがあるので、こうかいしたくないという自分の気もちでいくと思う。 ……［児童Ｅの記述］

ぼくは子供の約束を優先すると思います。理由は子供を裏切ると自分のひょうかが下がったりその子供にうわさを広められてつらいじょうたいになるかもしれないから子供優先する。あと手品をやってるうちにうわさを広められて人気になるかもしれないから。一石二鳥だと思う ……［児童Ｆの記述］

自分は、約束を優先した方がいいと思います。理由は、子どもの笑顔が見たいので自分は、約束を優先した方がいいと思いました。 ……［児童Ｇの記述］

自分の意志で決めるという子がいる一方、周りの目を気にして決めるという子、自分の良いという気持ちに従うという子など一度目の発問と同じく様々な考えが見られた。

(2) 研究テーマについて（授業を通しての考察）

①教材と提示方法の工夫について

「手品師」という教材を使い、後半の手品師が子どもとの約束を優先するシーンは提示しなかった。子どもとの約束を守り、自分の夢を叶えるチャンスをあきらめるというシーンは子どもたちの目にとても良いことに映る可能性がある。他者との約束を守ることも自分の夢のために必死になることも、自分の良心に偽らずに向き合い自己決定するならばど

ちらも同じく価値があると気付くことの妨げになるとの考えからである。しかし話合いの様子を見ると全文通して読んでも、特に妨げとはならなかったように思う。また発問の「誠実とはどういうことか」は語義を問うているようで、子どもたちに考え、話し合ってほしいことにたどり着くまで、回り道をさせてしまった。例えば全文を提示したうえで、「あなたは手品師の行動が誠実だと思いますか？」と問いかけたり、約束を優先するシーンを提示せず「手品師が誠実に生きるためにはこの後どうすればよいでしょう？」と行動選択を考えさせたりするとより簡潔に主題に迫れたと考える。

②自己の活動前後の考えの変容を記録

対話を通して意見の交換をすることで、ほとんどの児童が活動前後で大きく変容していた。補助発問をしたり、他の児童とは異なる考えを示した児童の発言を取り上げたりと対話がより深い学びになるよう工夫したことで、誠実に対する捉え方が変わった子、理解が深まった子が多く、対話前にほとんど書けなかった子も自分なりの考えを書けるようになっていた。

③他者の発言・考えの記録

他者の発言を傾聴し、自分の考えに取り入れる児童や異なった考えに刺激を受ける児童が多かった。しかし話し合う中で記録するのは難易度が高く、よく聞いていたが記録に残せない児童も多く、他の手立てが必要である。

(3)今後の課題

児童は対話の中で他者を尊重し、お互いに考えを深めることができていたが課題も多く残った。

①発問の仕方をさらに工夫する。

主発問を本時の内容項目「誠実」に迫れるように、約束を守ってさえいれば、すなわち誠実なのかを児童が考えられるように設定した。しかし児童は物語の話として自分事と捉えにくかった。また約束を守ることと、自分の夢を叶えることのどちらかが正解で、片方が間違いだととらえる児童もいた。児童がどのように受け止めるかを考慮し、より道徳的価値に迫りやすい発問を検討する。

②対話後に学級で学習内容についてまとめ、共通了解まで練り上げる。

児童個々の考えは対話前と対話後の記述により深まった。葛藤を経て損得や他者からの評価に関わらず良心に基づいて自己決定する価値に気付く児童もいた。しかし、せっかくの気付きを共有できず、［児童Fの記述］にもあるように他者の評価を考慮して決定するというような児童もいた。気付きを得られる機会を増やす必要がある。

そのための手立てとして、まず話合いの最中の他者の発言・考えの記録を児童個々に任せるのではなく、指導者が板書して残しておくことが考えられる。対話の支援をしながら詳細な板書をするのは難しいため、今回の授業では板書が十分ではなかった。児童の発言を予測し、事前にキーワードをカードにし黒板に貼れるようにする。対話の進行を児童が中心となって進められるよう対話のルールを再度徹底するなどして対話の流れを確認できる板書を目指す。

次に、この板書をもとに対話後に学習内容を振り返り、児童の発言や新しい考え方などを取り上げて学習内容をまとめる。以上2点の改善により学級内の共通了解を練り上げていく。

参考・引用

・小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編　H29.7　文部科学省